

キイトルーダ・インライタ療法を受けられる方へ

泌尿器 科 ID: _____ 様

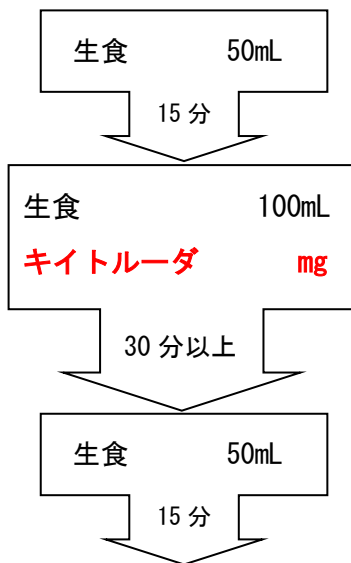
担当薬剤師

【投与スケジュール】

		1 日目	2～21 日目
☐	キイトルーダ(200 mg)	○	
	インライタ (内服)	連日内服	
		1 日目	2～42 日目
☐	キイトルーダ(400 mg)	○	
	インライタ (内服)	連日内服	

☆3 週間または6 週間ごとに繰り返し投与します。
☆検査の結果によりスケジュールや投与量が
変わることがあります。

【点滴内容】



キイトルーダ：がん細胞の増殖を抑える薬です。



【内服薬について】



- ☐ インライタ錠 5 mg 1 日 2 回 朝夕食後 1 回 1 錠
- ☐ インライタ錠 1mg 1 日 2 回 朝夕食後 1 回 _____ 錠



インライタ錠：がん細胞の増殖を抑える薬です。

服薬日誌等も利用しましょう。

飲めなかった薬は病院に持ってきてましょう。

【主な副作用と対策】

インフュージョン・リアクション：キイトルーダの点滴を始めてから、発熱・悪寒・吐き気・頭痛・疼痛・痒み・発疹・咳・胸の重苦しさなどのアレルギーに似た症状が起こることがあります。違和感があるようでしたら知らせてください。

血管外漏出：針の刺入部の皮膚が赤くなる・腫れる・痛い・熱っぽい・かゆみが出るなどの症状が現れる場合があります。異常を感じたらすぐに知らせてください。

脱毛：ほとんどありません。（1%未満）

手足症候群：手足がヒリヒリ・チクチクする、赤く腫れる、皮膚にひび割れや水疱ができ、痛みが生じる事があります。刺激の少ないハンドクリームや保湿剤を使用し、手足の乾燥を防ぎましょう。
塗り薬が処方されている場合には、指示通りに使用してください。



腸管穿孔：稀ですが腸に穴があいてしまうことがあります。今までに経験したことのないようなお腹の痛みがある場合には、我慢せず、病院へ連絡してください。

創傷治癒遅延：お薬の影響で傷が治りにくくなっていますので、怪我には十分注意しましょう。

血栓症：血栓ができやすくなっています。足がむくんだり、痛くなったり、突然息切れがするようなことがありましたら知らせてください。

粘膜からの出血：血が止まりにくくなっています。怪我には十分注意しましょう。圧迫止血などをして、血が止まらない場合には連絡してください。

高血圧：血圧が高くなる場合があります。もともと血圧を下げる薬を飲んでいる方は特に注意してください。自宅での血圧測定をお勧めします。



たんぱく尿：おしっこにたんぱくが混じることがあります。

発声障害：インライタの治療中にしゃべりにくい、声が変わったなどという発声の障害が現れることがあります。休薬することで回復していきます。

疲労感・全身倦怠感：全身がだるくなったり、力が抜けたような感じになることがあります。十分な休息をとりましょう。

可逆性後白質脳症症候群：稀ですが可逆性後白質脳症症候群（脳のむくみ）を生じることがあります。頭痛・けいれん・意識がもうろうとする、視力障害などが見られる場合にはお知らせください。

《免疫関連有害事象について》

キイトルーダには稀ですが、免疫に関連する副作用が発現することがあります。

主な副作用と自覚症状は下記の通りです。

副作用の頻度は低いですが、放っておくと重症化するため、ご自身でも体調の変化に注意し、いつもと違う症状がある場合には医師や医療スタッフに相談してください。

また、これらの副作用は治療を中止した後でも発現することがあるので注意してください。

☆この説明書と合わせて、メーカー作成のパンフレットも参考にしてください。



間質性肺炎：息切れ、呼吸が苦しい、乾いた咳、胸の痛み、発熱など



大腸炎・重度の下痢：下痢、排便回数の増加、血便、腹痛、吐き気・嘔吐など

肝障害・劇症肝炎：だるさ、かゆみ、皮膚や白眼が黄色くなる、食欲不振、発熱、腹痛、尿の色が濃くなるなど

I型糖尿病：だるさ、体重減少、口が渇く、多飲、多尿など

重症筋無力症：まぶたが重い、物が二重に見える、手足に力が入らない、顔の筋肉が動かしにくい、食べ物が飲み込みにくいなど

筋炎・横紋筋融解症：だるさ、筋肉痛、手足に力が入らない、尿の色が赤褐色になる、発熱など

甲状腺機能障害：だるさ、むくみ、寒がり、体重増加、便秘など(機能低下)

汗をかきやすい、体重減少、手指のふるえ、脈の乱れなど(機能亢進)

下垂体機能障害：頭痛、だるさ、見えにくい、のどが渇く、めまい、排尿回数や尿量の増加など

副腎障害：だるさ、吐き気・嘔吐、食欲不振、意識が薄れる、判断力の低下など

神経障害・脳炎：手足のしびれや痛み、運動や感覚のまひ、失神、精神状態に変化がある、だるさなど

腎障害：むくみ、尿量減少、疲れやすい、貧血、血尿など

重度の皮膚障害：全身に赤い斑点や水ぶくれが出る、ひどい口内炎、まぶたや眼の充血、粘膜のただれ、発熱など



重篤な血液障害：歯茎や鼻からの出血、皮下出血、息切れ、だるさ、かゆみ、発熱など

心血管系障害：発熱、倦怠感、胸痛、息切れ、筋肉痛、むくみ、局所の痛み・熱感



膵炎：腹痛、背中への痛み、吐き気・嘔吐など

眼障害：見えにくい、まぶしく感じる、虫が飛んでいるように見えるなど

【日常生活で注意していただきたいこと】

- ① 抗がん薬は投与後しばらくの間、尿や便に残ります。抗がん薬投与後 2 日間 (48 時間) は、トイレのふたを閉めて水を 2 回流しましょう。男性の方は尿の飛び散りを防ぐために座って排尿しましょう。
- ② ご家族が吐物や排泄物を処理する場合には必ず手袋をしましょう。汚染したゴミはビニール袋に入れて口元をしっかりと閉じてから廃棄してください。
- ③ 経口抗がん薬の内服はできる限り患者さん自身で行いましょう。



副作用の全てが現れるわけではありません。

また、これら以外の副作用が現れる場合もあります。

気になる症状がありましたら必ず医師・薬剤師・看護師にご相談ください。

この説明書はかかりつけ医やかかりつけ薬局薬剤師にもお見せください。



お薬に関する相談先

北信総合病院 (代表) 0269-22-2151
薬剤部 医薬品情報管理室 内線 2530

